

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Th34281A ③	教 職 論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：時代の変化に対応した教員養成の在り方を理解し、教職者に求められる専門性について論じることができる。</p> <p>科目試験：教職者に求められる資質や能力、教職の在り方などの基本的事項について理解している。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職（保育）者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か</li> <li>2. 教職（保育）者に求められる資質・能力</li> <li>3. 教員（保育者）養成の歴史</li> <li>4. 教職（保育）者の資質と役割</li> <li>5. 指導計画（保育のねらい・内容）</li> <li>6. 教職（保育）者の仕事・義務・研修</li> <li>7. 教職（保育）者の職場環境</li> <li>8. 教職者の制度的な位置付け</li> <li>9. 教職者の任用と服務</li> <li>10. 教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）</li> <li>11. 教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携</li> <li>12. 教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割</li> <li>13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）</li> <li>14. 今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）</li> <li>15. よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え）</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「教職論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Pr32010A ③	教育原理	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全について理解できる。</p> <p>レポート：レポート作成を通じて教育原理に関する知識を習得・整理するとともに自身の意見を考えることができる。</p> <p>科目試験：教育原理に関する体系的な知識を習得しており、それに対する自身の意見を持ち、文章で表現することができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性</li> <li>2. 世界の教育思想①ソクラテス〜ルソーの思想・実践</li> <li>3. 世界の教育思想②ヘルバルト〜デューイの思想・実践</li> <li>4. 日本の教育思想</li> <li>5. 子どもの発達と教育</li> <li>6. 子どもの権利</li> <li>7. 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園</li> <li>8. 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園</li> <li>9. 世界における教育の歴史の変遷</li> <li>10. 日本における教育の歴史の変遷</li> <li>11. 公教育制度、義務教育制度</li> <li>12. 教師という仕事、教授法</li> <li>13. 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化</li> <li>14. 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング</li> <li>15. 教育における今日的課題③学校外との連携</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「教育原理」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ed34311B ④	教 育 心 理 学	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期を中心とした人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みと動機づけ、指導方法と実践活動について学びを進めていく。また子どもを取り囲む環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。</p>			
<b>〈学習成果〉</b>			
<p>レポ ー ト：教育心理学における動機づけのしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を自分の考えで説明することができる。</p> <p>科 目 試 験：教育心理学における基礎的知識を理解し、教育・保育場面での活用方法を概説することができる。</p> <p>スクーリング：教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、乳児期から青年期までの発達の特徴について、「学習」では、学習・動機づけの理論、実際の教育・保育現場での指導・評価方法について解説する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<b>【通信授業】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学を学ぶ意義（教育心理学とは） <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定</li> <li>②教育心理学の四大領域を学ぶ意義</li> </ol> </li> <li>2. 発達の考え方とその理解（子どもの発達） <ol style="list-style-type: none"> <li>①生涯発達心理学の概念</li> <li>②各段階における発達の特徴（運動、言語、認知、社会発達）</li> </ol> </li> <li>3. 学習の仕組み（子どもの学び） <ol style="list-style-type: none"> <li>①連合説と認知説</li> <li>②様々な学習理論の応用</li> </ol> </li> <li>4. 主体的な学習を支える「やる気」（動機づけ） <ol style="list-style-type: none"> <li>①内発的動機付けと外発的動機付け</li> <li>②学習性無力感と自己効力感</li> </ol> </li> <li>5. 集団での学習とその評価（どのように教えるか／評価する—教育評価） <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習指導の形態</li> <li>②評価の仕方とその意義</li> </ol> </li> <li>6. 動機付けからみる発見学習の仕組み（どのように教えるか） <ol style="list-style-type: none"> <li>①発見学習の手続き</li> <li>②発見学習により動機付けが高まる理由</li> </ol> </li> <li>7. 教育心理学に基づく保育実践</li> </ol>			
<b>【面接授業】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達課題に応じたかかわり <ol style="list-style-type: none"> <li>①各段階の発達の特徴</li> <li>②エリクソンの発達課題</li> </ol> </li> <li>2. 子どもから大人への思考様式の変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ピアジェの認知発達理論</li> <li>②思考発達段階ごとの特徴</li> </ol> </li> <li>3. 学びを支える記憶 <ol style="list-style-type: none"> <li>①感覚記憶、短期記憶、長期記憶</li> <li>②記憶の忘却</li> </ol> </li> <li>4. 子どもの学びの姿 <ol style="list-style-type: none"> <li>①日常生活からみる学習理論</li> <li>②オペラント条件付けを利用した保育実践</li> </ol> </li> <li>5. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> <li>①指導者の態度（ピグマリオン効果）</li> <li>②様々な学習形態とその効果</li> </ol> </li> <li>6. 子どもの遊びの重要性 <ol style="list-style-type: none"> <li>①遊びの変化</li> <li>②遊びを通じた社会性の発達</li> </ol> </li> <li>7. 子どもと道徳 <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼児期に迎える第一次反抗期と自立</li> <li>②道徳の指導方法</li> </ol> </li> <li>8. 教育心理学を用いた環境づくり</li> </ol>			

## 時間外学習の内容と時間の目安

### 【事前学習】時間の目安：1時間程度

配本テキストの該当ページを読み、用語の意味を理解しておくこと。

### 【事後学習】時間の目安：1時間程度

講義内容について、配布プリント・配本テキストを参照しながら復習すること。

## テキスト

「教育心理学」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレール館)

「保育所保育指針解説」(最新版)(フレール館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレール館)

## 参考書・参考資料等

「キーワード教育心理学」永江誠司編 北大路書房 2013年 (ISBN：9784762827938)

「改訂版 楽しく学べる最新教育心理学」桜井茂男編 図書文化社 2017年 (ISBN：9784810076905)

「教育心理学」西口利文・高村和代編 ナカニシヤ出版 2010年 (ISBN：9784779504778)

その他 教育心理学関連図書

## 学生に対する評価

【通信授業】学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

【面接授業】科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Sp34500D ④	特別支援教育	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：特定の診断名における教育的ニーズを理解し、具体的な支援方法や留意点を表現できる。特に、注意欠如・多動症を持つ子どもの対応について、文献収集を含めて独力で学習し、保育場面での振る舞いまで想像できる。</p>			
<p>科目試験：特別支援教育の対象となる子供の支援方法について説明できる（病弱・身体虚弱・知的障害・限局性学習症を対象とする）。特別支援教育コーディネーターの役割について理解し、説明できる。特別支援教育の基本となる法律特別支援の対象は貧困状態の子どもなど、障害を持つ子どもに限らないことを理解し、説明できるほか、特別支援学校の役割や、合理的配慮概念の成立と実践例についても説明できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程（特別支援教育とは）       <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別な教育的ニーズとは何か</li> <li>②特別支援教育課程と学びの場</li> </ol> </li> <li>発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性       <ol style="list-style-type: none"> <li>①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち</li> <li>②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び</li> </ol> </li> <li>視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性       <ol style="list-style-type: none"> <li>①多様な子供のニーズの理解</li> <li>②多様な子供の学びと生活</li> </ol> </li> <li>子供のニーズに合わせた支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育課程における支援</li> <li>②通常の学級における担任による支援</li> </ol> </li> <li>教育チームによる組織的支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別の指導計画及び個別の教育支援計画</li> <li>②アセスメントに基づく計画と評価</li> </ol> </li> <li>特別支援教育コーディネーター       <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援教育コーディネーターの役割</li> <li>②外部教育資源との連携と協働</li> </ol> </li> <li>保護者・家庭支援と連携       <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者・家庭をとりまく問題</li> <li>②保護者・家庭とのつながりの重要性</li> </ol> </li> <li>特別な教育的ニーズを考える（現代的な視点から）       <ol style="list-style-type: none"> <li>①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援</li> </ol> </li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「特別支援教育」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～」</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題を通して専門知識の理解、獲得及び思考表現を判定し評価する。  （評価はルーブリック評価を用いる）  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
De33370A ④	発達心理学	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>学習者は、発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について重点的に学び、実際の保育活動や対人支援活動を踏まえながら、発達を捉える視点について理解する。また、これらの事項に関わる一般心理学についても基礎的な知見を得て、養護・教育に活かせるようになる。加えて、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得ることで、保育が小学校以降の発達にも関わることを理解し、保育の意義・重要性を学ぶ。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：「発達心理学」そのものについて理解した上で、発達心理学的視点から「ことばの発達」について捉えることができ、特に乳幼児期に生じる子どもの「ことばの発達」の特徴（たとえば、初語の発生前にことばの理解が生じていること）を予想し、対応を考え、記述することができる。発達の一般的特徴（発達の原理）について理解し、全て具体例と結びつけながら説明できる。</p> <p>科目試験：発達心理学にかかわる基本的な概念（「愛着」「アイデンティティ」「遊び」）を理解し、説明できる。また、遺伝と環境に関わる説を網羅的に捉え、説明できる。ピアジェの発達段階概念を完全に理解し、説明することができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達心理学の定義、意義、発達心理学で学ぶ内容の概要</li> <li>2. 発達はどのように起こるか：遺伝説と環境説、それらの複合説について</li> <li>3. 発達はどのように起こるか(2)：発達の一般的傾向（発達の原理）</li> <li>4. ピアジェの発達心理学：感覚運動期の発達動物行動学による、生理的欲求の充足以外の「絆」の構築について</li> <li>5. ピアジェの発達心理学(2)：前操作期の発達</li> <li>6. ピアジェの発達心理学(3)：具体的操作期および形式的操作期の発達</li> <li>7. 乳幼児期の発達：表象の発達と、愛着と人間関係の発達、認知発達の特性、学びにかかわる理論</li> <li>8. 幼児期から児童期の発達：運動・言葉・情緒・遊びの発達、および自我の発達と、そのあらわれ方</li> <li>9. 児童期・青年期の発達：社会性の拡張と、アイデンティティの確立</li> <li>10. 個別機能の発達を詳細に捉える：言語の発達</li> <li>11. 個別機能の発達を詳細に捉える(2)：人間関係の発達</li> <li>12. 成人期の発達：親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題</li> <li>13. 壮年期・老年期の発達：人格の完成と、死の受容</li> <li>14. 保育に活用できる発達心理学：発達課題、発達段階の理解による保育計画や環境の構成</li> <li>15. これからの発達心理学：ジェンダー観、インクルーシブな保育、新しい「発達課題」を考える</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「発達心理学」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「史上最強図解よくわかる発達心理学」（林洋一（監修）、ナツメ社、ISBN：9784816349324）  「発達と育ちの心理学」（佐藤公治・増山由香里・長橋聡・青木美和子（著）、萌文書林、ISBN：9784893473394）</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Cu34071A ③	教育課程論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・全体的な計画（保育課程）について理解する。</li> <li>2. 教育課程・全体的な計画（保育課程）の編成と指導計画の作成について、その意義や方法を具体的に習得する。</li> <li>3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。</li> </ol>			
<b>〈学習成果〉</b>			
<p>レポート：1. 幼児期の教育と小学校教育との違い及び円滑な接続の方法としてのスタートカリキュラムについて理解できる。</p> <p>2. 教育課程・全体的な計画（保育課程）の必要性と編成する際の留意事項及び評価・改善について理解できる。</p> <p>科目試験：1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の取組みにおける留意点が理解できる。</p> <p>2. 5領域と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性が理解できる。</p> <p>3. カリキュラムの種類について理解できる。</p> <p>4. 2017年改訂の「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の改訂の要点について理解できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼児、子どもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手立て（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画（保育課程）の意義と役割を明らかにする。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程・全体的な計画（保育課程）編成の基本的な考え方、意義と必要性</li> <li>2. カリキュラムの基礎理論</li> <li>3. 日本における教育課程・保育課程の変遷</li> <li>4. 時代の変化に対応した教育課程・全体的な計画（保育課程）の在り方、編成と評価</li> <li>5. 教育課程・全体的な計画（保育課程）に関わる法規の理解</li> <li>6. 学習指導要領の変遷とその特色</li> <li>7. 園生活と長期・短期の指導計画</li> <li>8. 教育課程・全体的な計画（保育課程）編成の実際</li> <li>9. 保育の基本と実践（記録及び省察による教育・保育の質向上）</li> <li>10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム</li> <li>11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史</li> <li>12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性</li> <li>13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷</li> <li>14. 教育課程をめぐる諸問題</li> <li>15. 信頼される園づくりと地域子育て支援</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「教育課程論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「教育課程・保育計画総論」田中亨胤、佐藤哲也（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623047161）</p> <p>「教育・保育カリキュラム論」田中亨胤、三宅茂夫（みらい）（ISBN：9784860154783）</p> <p>「教育課程論」神長美津子、津金美智子、河合優子、塩谷香（光生館）（ISBN：9784332701835）他</p>			

## 学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Su34351A ③	保育内容総論	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>レポート：アクティブラーニングについて具体例をあげて説明し、保育者として意識しておくことを論じるができる。</p> <p>試験科目：平成年代の保育内容の変遷を理解し、「養護と教育の一体性」保育の重要性と保育における現代的課題について論じることができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育現場に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な事例をもとに解説する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
1. 保育の全体的構造	①育みたい資質・能力の三つの柱 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿		
2. 保育内容の歴史の変遷	②領域の考え方と乳幼児保育の領域		
3. 養護と教育の一体的展開	①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題		
4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容	①養護のなかかわりと教育的なかかわり ①乳幼児にとって園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携		
5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育		
6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成	①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮		
7. 保育の評価と保育の記録	①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解		
8. 保育内容の現代的課題について	①子育て支援 ②文化共生保育		
<b>テキスト</b>			
<p>「保育内容総論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「3法令改訂(定)の要点とこれからの保育」無藤 隆著(チャイルド本社)平成29年告示 2017年 (ISBN: 9784805402597)</p> <p>「3法令ガイドブック」無藤 隆・汐見稔幸・砂上史子著(フレーベル館)(ISBN: 9784577814253)</p> <p>「0～5歳児の非認知的能力—事例でわかる!社会情動のスキルを育む保育」佐々木 晃著(チャイルド本社) 2018年 (ISBN: 9784805402764)</p> <p>「イラストで読む」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかりBOOK 無藤 隆、汐見稔幸編(学陽書房)平成30年5月25日 (ISBN: 9784313660649)</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学生状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。 (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32042D ④	こどもの指導法「健康」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容について指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。</p> <p>≪学習成果≫</p> <p>スクーリング：乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら積極的な健康づくり指導を目指す。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観 <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」</li> </ul> </li> <li>乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本</li> </ul> </li> <li>子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健康と虐待</li> </ul> </li> <li>基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 <ul style="list-style-type: none"> <li>食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る</li> </ul> </li> <li>子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解</li> </ul> </li> <li>安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解</li> </ul> </li> <li>健康と自然環境、園外保育の活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解</li> </ul> </li> <li>保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度 内閣府のホームページ内より「子どもの健康」で検索し、食育および心の健康に関連のある内容につき目を通しておくこと（複数あるため1つでよい）。</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度 子どもの健康状態はいかにあるべきか、について目的（ゴール）と目標（目的までのプロセス）を考えておくこと。また、自身の健康づくりに留意すべく情報収集を心がけること。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32052B ③	こどもの指導法「人間関係」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。</p> <p>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。</p> <p>3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p>			
<p>また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「人間関係」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいと内容及びその取扱い</li> <li>・保育者としての役割</li> </ul> </li> <li>2. 保育者としての環境作りと評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定</li> <li>・保育構想と指導案（模擬保育）</li> </ul> </li> <li>3. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助① <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人意識、自己概念の発達</li> <li>・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫</li> </ul> </li> <li>4. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助② <ul style="list-style-type: none"> <li>・個と集団の育ちの姿</li> <li>・こどもの心の拠り所である保育者の工夫</li> </ul> </li> <li>5. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫</li> <li>・集団におけるこども同士の関わり芽生え、調和を支える保育者の工夫</li> </ul> </li> <li>6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫</li> <li>・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点</li> </ul> </li> <li>7. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助⑤ <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども同士を結び付ける遊びと保育者の役割</li> <li>・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）</li> </ul> </li> <li>8. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）</li> </ol>			

## 時間外学習の時間の目安と内容

### 【事前学習】 時間の目安：5時間程度

幼児教育の基本と領域「人間関係」に示される「ねらい」「内容」および「内容の取り扱い」を理解するよう、事前に幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説に目を通しておく。

### 【事後学習】 時間の目安：3時間程度

遊びや地域の人的環境を通して、子どもの人と関わる力の成長・発達を援助していくための保育者のあり方について実践の中で考察してゆく。

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）

## 参考書・参考資料等

特になし

## 学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32062C ③	こどもの指導法「環境」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：領域「環境」がわかり、領域環境に関わるねらいを達成するための幼児の発達や学びの過程をふまえた保育実践ができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>5領域と領域「環境」、領域「環境」のねらいと内容、指導上の留意点。領域環境に係る幼児の発達や学びの過程の理解。保育実践の原則をふまえた具体的な保育の構想、教材や情報機器の効果的な活用。作成した指導案に基づく模擬保育と振り返り。小学校教育との接続。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育の基本と5領域および各領域の特色、ねらいと内容の理解。</li> <li>2. 幼稚園教育における評価の考え方。領域「環境」のねらいと内容の構成。</li> <li>3. 幼児期の特性や幼児の発達理解と、情報機器及び教材の活用。指導案の作成（幼児の姿、ねらい、内容、環境構成、幼児が経験する内容の展開、指導上の留意点）。</li> <li>4. 小学校の教科等とのつながり。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム。</li> <li>5. 模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点。情報機器の活用と指導案の作成。</li> <li>6. 保育構想の重要性と保育構想の向上。</li> <li>7. 幼児が身に付けていく内容と指導上の留意点。保育の構想の重要性。</li> <li>8. 領域「環境」に関わる保育の課題。小学校とのつながり。指導案の作成。</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：3時間程度			
<p>幼稚園教育要領解説または、保育所保育指針解説の「ねらい及び内容」を読み、領域「環境」の目標、ねらい及び内容を理解する。</p>			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：3時間程度			
<p>作成した指導計画を見直し、幼児指導の原則がふまえられているか、ねらいや内容、環境構成や援助が適切であるか自己評価する。</p>			
<b>テキスト</b>			
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
配布資料（幼児の発達。発達の即したねらいと内容、幼児が経験してほしい内容。保育実践事例。）			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32073B ⑤	こどもの指導法「言葉」	1 単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。</li> <li>2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を書く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。</li> <li>3. 言葉遊び（わたべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。</li> <li>4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。</li> <li>5. 言葉に問題があり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、コミュニケーションを図ることができるようになる。</p> <p>2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。</p> <p>3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。</p> <p>4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。</p> <p>5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方</li> <li>・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり</li> </ul> </li> <li>2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「言葉」指導上の留意点と評価</li> <li>・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み</li> </ul> </li> <li>3. 言葉を豊かに育む活動（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法</li> <li>・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育</li> </ul> </li> <li>4. 言葉を豊かに育む活動（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉から文字へ、文字による環境</li> <li>・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験</li> </ul> </li> <li>5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援</li> <li>・外国のこどもとの対応</li> </ul> </li> <li>6. 言葉を豊かに育む活動（3） <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語教材としての絵本の意義</li> <li>・デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成</li> </ul> </li> <li>7. 言葉を豊かに育む活動（4） <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カード・カルタ等を利用した指導法と情報機器の利用について</li> <li>・お話等の実践による指導案作成及び模擬保育</li> </ul> </li> <li>8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携</li> </ol>			

## 時間外学習の時間の目安と内容

### 【事前学習】時間の目安：1時間程度

テキストの領域「言葉」を下読みしておく。

わらべうた・かるたなど言葉の育みに役立つ児童文化財について調べておく。

### 【事後学習】時間の目安：1時間程度

授業で学んだこと、実践したことを踏まえ、テキストの領域「言葉」を再度読み込みさらに深く理解する。

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

## 参考書・参考資料等

「保育内容 言葉」第3版（シートブック）榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社（ISBN：9784767950686）

「保育内容『言葉』最新保育講座10 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美 ミネルヴァ書房（ISBN：9784623056415）

「子どもの遊びの世界を知り、学び、考える！」小田豊 ひかりのくに（ISBN：9784564607875）

「子どもの心をつかむ保育者」小田豊 ひかりのくに（ISBN：9784564-600937）

「かかわりあって育つ子どもたち—2歳から5歳の発達と保育—」西川由紀子 かもがわ出版（ISBN：9784780306330）

## 学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
（評価はルーブリック評価を用いる）

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32083A ⑤	こどもの指導法「リズム表現」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。</p> <p>表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「表現」についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察</li> <li>②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解</li> </ol> </li> <li>2. 基礎リズム <ol style="list-style-type: none"> <li>①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点</li> <li>②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解</li> </ol> </li> <li>3. 基本動作 <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践</li> <li>②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践</li> </ol> </li> <li>4. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践</li> <li>②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践</li> </ol> </li> <li>5. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 <ol style="list-style-type: none"> <li>①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用</li> <li>②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成</li> </ol> </li> <li>6. 領域「表現」と小学校教科等のつながり <ol style="list-style-type: none"> <li>①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について</li> <li>②領域「表現」と小学校教科等とのつながり</li> </ol> </li> <li>7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> <li>①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践</li> <li>②保育構想発展のための相互発表による振り返り</li> </ol> </li> <li>8. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作</li> <li>②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践</li> <li>③保育構想発展のための相互発表による振り返り</li> </ol> </li> </ol>			

## 時間外学習の時間の目安と内容

### 【事前学習】時間の目安：1時間程度

乳幼児の年齢に応じた身体的・言語的・心理的発達の違いを、調べておきましょう。

保育所保育指針の乳児保育の項に記述されている3つの視点を、熟読しておいてください。

### 【事後学習】時間の目安：1時間程度

スクーリングを通して学んだ保育における、音楽の実技・技能を実践に役立てられるように復習し、まとめておきましょう。

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

## 参考書・参考資料等

「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著（ナツメ社）（ISBN：9784816354083）

「リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選」

神原雅之編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著（明治図書）（ISBN：9784187700168）

「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉著（一二三書房）（ISBN：9784891991524）

## 学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
（評価はルーブリック評価を用いる）

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32102C ⑤	こどもの指導法「造形表現」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う造形教材に必要な知識、さらに製作を通して教材研究と材料・用具の取り扱いや子どもの指導と援助について学習する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた造形活動について理解できる。  2. 幼児の造形活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。  3. 製作を通して幼児の造形活動の展開と援助のあり方、環境構成を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材について指導と援助のあり方や環境構成について、材料・用具・技法をもとに知識と製作体験とを関連づけながら学習を行う。さらに、幼児の造形活動の大切さを、造形的な表現の発達過程とその特徴を理解する中で学習を深める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校「図画工作」の学習指導要領との関連と連携</li> <li>2. 幼児の造形表現の意義とその内容、子どもの発達段階における表現の特徴、造形活動の環境づくり</li> <li>3. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価</li> <li>4. えがく領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について</li> <li>5. つくる領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について</li> <li>6. 造形あそび領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について</li> <li>7. えがく領域、つくる領域、造形あそび領域の実践的な指導法や模擬保育等の学習</li> <li>8. 情報機器を使った造形活動及び教材の活用 まとめ</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p>【事前学習】時間の目安：2時間程度</p> <p>「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の造形表現領域についてテキスト「造形表現論」をよく読んでおく。</p> <p>また、絵の具やクレヨンなどの造形教材を使って簡単な作品をつくってみる。</p> <p>【事後学習】時間の目安：2時間程度</p> <p>テキストやプリントで授業の内容を再度確認、整理しまとめる。また、授業で行った製作について、実習や保育の実践の場で活かすことができるよう教材研究を深め、再度、作品を作ってみる。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「造形表現論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
市販の造形表現に関する書籍等			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32110D ④	こどもの指導法「言語表現」	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>こどもの言語表現指導法と指導案の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容</li> <li>言語表現の指導法及び指導案の作成</li> </ul> </li> <li>児童文化財による乳幼児の言語表現活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>言語表現活動の意義と範囲</li> <li>言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法</li> </ul> </li> <li>言語表現が豊かになる児童文化財の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点</li> <li>わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点</li> </ul> </li> <li>言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法</li> <li>絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法</li> </ul> </li> <li>言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成</li> <li>絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り</li> </ul> </li> <li>言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（3） <ul style="list-style-type: none"> <li>わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法</li> <li>わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点</li> </ul> </li> <li>言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（4） <ul style="list-style-type: none"> <li>わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法</li> <li>わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り</li> </ul> </li> <li>年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p>【事前学習】時間の目安：1時間程度</p> <p>絵本、紙芝居を図書館などで3点以上読んでおく。また、わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲームを本やインターネットなどで調べておく。</p> <p>【事後学習】時間の目安：1時間程度</p> <p>授業で学んだことを意識して児童文化財を用いて演じてみる。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保幼小連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			

#### 参考書・参考資料等

『紙芝居－共感のよろこび』 まついのりこ（童心社）（ISBN：9784494022359）

『えほんのせかい こどものせかい』 松岡享子（文春文庫）（ISBN：9784167909468）

#### 学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
（評価はルーブリック評価を用いる）

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In32120B ⑤	こどもの指導法「音楽表現」	2単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>感性と表現に関する領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、ねらい及び内容等について理解を深め、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。</p>			
<p>《学習成果》</p>			
<p>スクーリング：1. 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2. 音楽表現活動に必要な知識や技能を修得し、理解を深める。 3. 模擬保育を行い、実践力を高める。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>感性と表現に関する領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容等を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感性と表現に関する領域「表現」の「ねらい」及び「内容」などの理解 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践</li> <li>2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 表現活動における伴奏の方法と実践</li> <li>3. 映像視聴などによる身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法 サウンドスケープなどの実践と楽器による表現及び伴奏法</li> <li>4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法</li> <li>5. 映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> <li>6. 映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法</li> <li>7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法</li> <li>8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践</li> <li>9. 「音あそび」「楽器遊び」などによる表現活動の理解と実践 乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏などに親しむための指導法</li> <li>10. 指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践</li> <li>11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践</li> <li>12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議 模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践</li> <li>13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践</li> <li>14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践</li> <li>15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ</li> </ol>			

## 時間外学習の時間の目安と内容

**【事前学習】** 時間の目安：1. 90分から120分の学習時間 2. 継続して30分以上の練習時間

1. 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育指針解説」に記載されている『感性と表現に関する領域「表現』』を熟読しておくこと。
2. ピアノ実技・ソルフェージュは毎日短時間でも継続して取り組むことが上達への近道である。

**【事後学習】** 時間の目安：90分から120分の学習時間

スクーリングへの参加により、音や音楽を保育の場において実践的に用いる具体的な知識や技能を修得することができた。総合的な音楽表現の知識を用いて具体的な指導案を作成するなど、復習しながら実習や保育実践に応用できるように準備をしよう。

## テキスト

「こどもの指導法『音楽表現』」（配本テキスト）

「音楽表現論」（配本テキスト）

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）

## 参考書・参考資料等

領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著 フレール館  
(ISBN：9784577813706)

新版 実践 保育内容シリーズ⑤ 音楽表現 三森桂子／小島エマ編著 一藝社 (ISBN：9784863591608)

改訂幼児のための音楽教育 神原雅之／鈴木恵津子編著 教育芸術社 (ISBN：9784877884437)

新版和音伴奏による幼児のうた100曲 在原章子／菊本哲也／柳田憲一／山内悠子共著 全音楽譜出版社 (ISBN：9784116200561)

子どものうた村保育の木 小川宜子／妹尾美智子／麓陽介共編 株式会社ドレミ楽譜出版社 (ISBN：978428512622)

やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 河本芳子／小泉八重子 新星出版社 (ISBN：9784405071391)

わらべうたあそび 木村はるみ著 成美堂出版 (ISBN：9784415305646)

保育で使える 合奏楽譜ベストセレクション 佐藤千賀子編著 ひかりのくに株式会社 (ISBN：9784564609176)

これで安心！保育指導案の書き方 開仁志編著 北大路書房 (ISBN：9784762826214)

## 学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や実技技能評価及び単位認定試験結果を総合的に評価する。  
(評価はルーブリック評価を用いて行う)

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Te34110A ③	教育方法論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。</p>			
<b>＜学習成果＞</b>			
<p>レポート：教育方法の歴史の変遷について理解できる。          幼児教育（保育）の方法について理解できる。          科目試験：幼児教育について、幼児教育と小学校の連携について理解できる。          近代以降の教育方法、評価について理解できる。          教育メディア、特に ICT 機器の活用について理解できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史の変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義・意義と守備範囲</li> <li>2. 教育方法の歴史的展開 1（西欧の教育方法）</li> <li>3. 教育方法の歴史的展開 2（近・現代の教育方法）</li> <li>4. 教育方法の歴史的展開 3（日本の教育方法）</li> <li>5. 教育技術の革新と情報機器の活用</li> <li>6. 教材・教具の理解と活用</li> <li>7. 特色ある授業実践</li> <li>8. 教育現場における授業技術</li> <li>9. 授業分析と授業評価</li> <li>10. 授業展開の構想</li> <li>11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて）</li> <li>12. 近代以降の幼児教育（保育）方法</li> <li>13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容</li> <li>15. 教育方法の課題と展望</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「教育方法論」（配本テキスト）          「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）          「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「小学校学習指導要領（解説書含む）」          「幼児学用語集」 小田豊等監修 北大路書房 2013年（ISBN：9784762828119）</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する          （評価はルーブリック評価を用いて行う）          科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する          （評価はルーブリック評価を用いて行う）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Un34291D ④	こどもの理解と相談支援	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>レポート：現代の子どもが置かれる環境とその影響、カウンセリングの基本について理解できるようになる。  科目試験：子どもの発達、カウンセリングの技法、職場での情報共有、保護者支援について理解できるようになる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握（こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度）</li> <li>2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴）</li> <li>3. こどもを理解する視点①（こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験）</li> <li>4. こどもを理解する視点②（葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行）</li> <li>5. こどもを理解する方法①（知能検査・発達検査・行動観察法、他）</li> <li>6. こどもを理解する方法②（観察・記録・省察・評価）</li> <li>7. こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達</li> <li>8. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める）</li> <li>10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援</li> <li>11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援</li> <li>12. 相談支援の実際①（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち）</li> <li>13. 相談支援の実際②（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント）</li> <li>14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携）</li> <li>15. 相談支援の課題と対応（教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成）</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態		
Un33350C ③	こどもの理解と援助	1 単位	スクーリング		
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>					
<p>保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：子ども理解と援助について、授業計画の各項目について理解し、それを踏まえて将来の実践にどのように活かしたいか考えることができる。また、子どもへの適切な援助について、心理学的知識等を用いて考えることができる。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2. 保育の実践における、一人一人の子どもの発達や学びを把握することの重要性を理解する。</li> <li>3. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>4. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>5. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ol>					
<b>実務経験の概要</b>					
<b>授業計画</b> スクーリングによる通信授業					
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における子どもの理解の意義</li> <li>(2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり</li> </ol> </li> <li>3. 子どもを理解する視点①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの生活や遊び</li> <li>(2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</li> <li>(3) 子ども相互の関わりと関係づくり</li> <li>(4) 集団における経験と育ち</li> </ol> </li> <li>4. 子どもを理解する視点②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 葛藤やつまずき</li> <li>(2) 保育の環境の理解と構成</li> <li>(3) 環境の変化や移行</li> </ol> </li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもを理解する方法①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 観察</li> <li>(2) 記録</li> </ol> </li> <li>6. 子どもを理解する方法②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 省察・評価</li> <li>(2) 職員間の対話</li> <li>(3) 保護者との情報の共有</li> </ol> </li> <li>7. 子どもの理解に基づく発達援助①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> </ol> </li> <li>8. 子どもの理解に基づく発達援助②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の連続性と就学への支援</li> <li>(2) 幼保小接続期におけるさまざまな連携</li> </ol> </li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における子どもの理解の意義</li> <li>(2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり</li> </ol> </li> <li>3. 子どもを理解する視点①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの生活や遊び</li> <li>(2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</li> <li>(3) 子ども相互の関わりと関係づくり</li> <li>(4) 集団における経験と育ち</li> </ol> </li> <li>4. 子どもを理解する視点②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 葛藤やつまずき</li> <li>(2) 保育の環境の理解と構成</li> <li>(3) 環境の変化や移行</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもを理解する方法①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 観察</li> <li>(2) 記録</li> </ol> </li> <li>6. 子どもを理解する方法②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 省察・評価</li> <li>(2) 職員間の対話</li> <li>(3) 保護者との情報の共有</li> </ol> </li> <li>7. 子どもの理解に基づく発達援助①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> </ol> </li> <li>8. 子どもの理解に基づく発達援助②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の連続性と就学への支援</li> <li>(2) 幼保小接続期におけるさまざまな連携</li> </ol> </li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育における子どもの理解の意義</li> <li>(2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり</li> </ol> </li> <li>3. 子どもを理解する視点①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの生活や遊び</li> <li>(2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</li> <li>(3) 子ども相互の関わりと関係づくり</li> <li>(4) 集団における経験と育ち</li> </ol> </li> <li>4. 子どもを理解する視点②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 葛藤やつまずき</li> <li>(2) 保育の環境の理解と構成</li> <li>(3) 環境の変化や移行</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもを理解する方法①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 観察</li> <li>(2) 記録</li> </ol> </li> <li>6. 子どもを理解する方法②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 省察・評価</li> <li>(2) 職員間の対話</li> <li>(3) 保護者との情報の共有</li> </ol> </li> <li>7. 子どもの理解に基づく発達援助①               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> </ol> </li> <li>8. 子どもの理解に基づく発達援助②               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の連続性と就学への支援</li> <li>(2) 幼保小接続期におけるさまざまな連携</li> </ol> </li> </ol>				
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>					
<p>【事前学習】時間の目安：2時間程度 シラバスをよく読んで、授業内容や質問事項をまとめておく。</p> <p>【事後学習】時間の目安：2時間程度 授業（スクーリング）で学んだことを復習する。</p>					
<b>テキスト</b>					
<p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>					
<b>参考書・参考資料等</b>					
<p>「新 基本保育シリーズ⑩ 子ども理解と援助」 公益財団法人児童育成協会監修／清水益治・森 俊之編集（中央法規）2019（ISBN：978-4-8058-5790-8）</p>					
<b>学生に対する評価</b>					
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>					

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In34322C ④	乳幼児保育 I	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷及び背景と制度について理解する。</li> <li>2. 保育所、地域型保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、知識を得る。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保健・衛生・安全危機管理について理解する。</li> <li>4. 乳幼児保育における職員間・保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。</li> <li>5. 乳幼児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>レポート：乳幼児保育について社会福祉としての基礎理念を理解するとともに、子どもの発達とその特徴及び具体的な援助・配慮について理解できる。</p>			
<p>科目試験：乳幼児保育における清潔・安全・危機管理を踏まえた保育のあり方について具体的に理解できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達と保育の営み等、乳幼児保育の基本的な知識について学び、その意義や必要性について理解する。生涯にわたる生きる力の基礎を培う重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、子どもの発達にふさわしい適切な保育の計画や方法、保護者との連携や子育て支援のあり方を理解し、保育者としての総合的な知識・資質を育成する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷</li> <li>2. 乳幼児保育の役割と機能、保育における養護と教育</li> <li>3. 乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題</li> <li>4. 保育所における乳幼児保育</li> <li>5. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）</li> <li>6. 地域型保育等における乳幼児保育</li> <li>7. 3歳未満児の保健・衛生・安全危機管理を考慮した生活と環境</li> <li>8. 3歳未満児の発達・発育を踏まえた3歳未満児の遊びと環境</li> <li>9. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育</li> <li>10. 3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育者の援助や配慮</li> <li>11. 乳幼児保育における保育計画のありかた</li> <li>12. 乳幼児保育における保育計画に基づく保育実践・省察・評価</li> <li>13. 職員間の連携・協働</li> <li>14. 保護者との連携・協働</li> <li>15. 自治体や地域の関係機関との連携、子育て支援の実際</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
「乳幼児保育 I」(配本テキスト)			
「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーバル館)			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーバル館)			
<b>参考書・参考資料等</b>			
大橋喜美子著『新時代の保育双書 乳児保育〔第4版〕』みらい 2022 (ISBN: 978-4-86015-579-7)			
咲間まり子著『コンパス乳児保育』建帛社 2018 (ISBN: 9784767950631)			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			
<p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
In34323D ④	乳幼児保育Ⅱ	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を理解し、実践的な援助やかかわり方を理解する。</li> <li>2. 3歳未満児の発達を踏まえながら、子どもの主体性や興味・関心、心身の発達を促すおもちゃを考案・製作・発表・評価する。</li> <li>3. 指導案を理解し、映像を通して乳幼児保育の実査を具体的に学び、実践力の育成を図る。</li> <li>4. 乳幼児の健康・安全危機管理を踏まえた保育の環境づくりと、乳幼児が安心して心地よく過ごせる生活の実践についての知識を深める。</li> <li>5. 乳幼児保育における様々な連携を理解する。</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：乳幼児保育の果たす役割を理解し、保育所における子どもの年齢に合わせた具体的な生活や遊びの援助や配慮を理解する。また、子どもの発達過程に沿った保育の方法や保育環境のあり方等、乳幼児保育の実践を実践的に理解できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>乳幼児の発達上の特徴など実践的な基礎知識を深め、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち</li> <li>2. 個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関りの実際</li> <li>3. 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際</li> <li>4. 1. 2歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実際</li> <li>5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 1 (手作りおもちゃの考案・制作)</li> <li>6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 2 (手作りおもちゃの制作・発表・評価)</li> <li>7. 乳幼児の保育計画のあり方の理解、集団生活における安全と配慮</li> <li>8. 乳幼児保育における具体的な連携</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：90分から120分の学習時間</p>			
<p>3歳未満児の発達過程に用いる「手作りおもちゃ」について著書やインターネットから資料の収集をする。</p>			
<p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：90分から120分の学習時間</p>			
<p>スクーリングで仲間の発表から情報共有して得た知識を踏まえ、実習や保育の実践の場で活かすことができる手作りおもちゃ等の教材研究を行い実習や保育の実践に備える。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「乳幼児保育Ⅰ」（配本テキスト）</p>			
<p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>大橋喜美子著『新時代の保育双書 乳児保育〔第4版〕』みらい 2022（ISBN：978-4-86015-579-7）</p>			
<p>乳幼児の発達と保育研究会著『0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』郁洋舎 2022</p>			
<p>（ISBN：978-910467-07-8）</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
So34332B ⑥	社会的養護Ⅱ	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい社会的養育ビジョンを踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。</li> <li>2. 社会的養護に関する権利擁護と法律を理解する。</li> <li>3. 家庭養護における里親制度について理解する。</li> <li>4. 施設養護における各種児童福祉施設の概要について理解する。</li> <li>5. 社会的養護に関わる各種専門職について理解する。</li> <li>6. 社会的養護における被措置児童虐待防止と自立支援について理解する。</li> <li>7. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
スクーリング： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護とは何かを把握する。</li> <li>2. 社会的養護に関わる知識及び技術を演習で身につけるとともに、実践事例等を通して具体的に理解する。</li> </ol>			
<b>授業の概要</b>			
新しい社会的養育ビジョンに示されている社会的養護における里親等の家庭養護の推進と施設養護における家庭的養育に関し理解する。また社会的養護を要する子ども達に対しての様々な支援やその具体的な援助内容・方法について演習などを通して理解を深める中で、施設の保育者に求められる倫理・資質についても学ぶ。			
<b>実務経験の概要</b>			
室谷雅美：高等学校12年、大西清文：福祉施設15年、菅原亜紀：保育所15年、神谷明宏：福祉施設17年			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義</li> <li>2. 現代社会における社会的養護の歴史の変遷</li> <li>3. 社会的養護の基本</li> <li>4. 社会的養護の制度と実施体系</li> <li>5. 社会的養護の対象・形態</li> <li>6. 社会的養護に関わる専門職</li> <li>7. 社会的養護の現状</li> <li>8. 社会的養護の課題</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：180分 テキスト『社会的養護Ⅰ』を熟読しておく。			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：120分 各自、テキスト『社会的養護Ⅰ』を参考に、配布されたレジュメなどを整理し復習し、理解する。			
<b>テキスト</b>			
「社会的養護Ⅰ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
「社会的養護入門」芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和（ミネルヴァ書房）2021 新しい社会養育的ビジョン（厚生労働省H29年） <a href="https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf">https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf</a>			
<b>学生に対する評価</b>			
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Pr34361D ①②③	教育実習事前・事後指導	1単位	事前スクーリング・事後スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。  実習を終えて、再度、教師の役割と保育の意義を確認する。  実習での学び・成果を確認し、これからの課題や目標を明確にする。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>スクーリング：教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。  教師の役割や教育実習での学びを確認し、これからの課題や目標を明確にする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、自分の課題や努力目標を明確にする。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の役割・幼稚園教育の基本と特質</li> <li>・実習の意義と目的</li> <li>・保育者としての倫理（守秘義務 職務に専念する義務 等）</li> </ul> </li> <li>2. 教育実習の流れと手続き、その内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生としての心構え</li> <li>・手続きの方法の確認</li> <li>・事前相談・打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>3. 観察・参加・責任実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期指導計画・短期指導計画</li> <li>・子どもを取り巻く環境（環境構成）</li> <li>・幼児理解と保育</li> </ul> </li> <li>4. 教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者理解と支援</li> <li>・特別な支援を要する子どもへの対応</li> </ul> </li> <li>5. 実践演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び、読み聞かせ</li> </ul> </li> <li>6. 指導案作成（1）</li> <li>・指導案とは何か</li> <li>7. 指導案作成（2）</li> <li>・指導案作成の実際</li> <li>8. 実習の総括と評価、課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解と学び</li> <li>・保育者の活動からの学び</li> <li>・これからの自分の課題と努力目標</li> </ul> </li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：2時間程度  ・教育実習の目標と、実習で実践したい活動や、読んでみたい絵本などを考えておく  ・実習の手続きについて予習し、疑問点をまとめておく</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度  ・実習の振り返りをまとめ、これからの自分の課題の克服と努力目標の実現に向けて努力する</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験の結果等を総合的に評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※事前指導スクーリングでは（学習のまとめ）も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば、教育実習申込条件の一つ満たします。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し、成績評価を行います。</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Gu34231D ①②③	保育実習指導 I	2単位	事前スクーリング・事前及び事後レポート
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。</p> <p>2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。</p> <p>①実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）を理解する</p> <p>②実習の心構え・マナーを学ぶ。報告・連絡・相談（ほうれんそう）の重要性を知る</p> <p>3. 実習の自己目標・実習課題を学ぶ。</p> <p>①自己目標（課題）の設定の仕方を学ぶ</p> <p>②実習日誌の書き方を学ぶ</p> <p>③指導計画（指導案）の意味と立て方を学ぶ</p> <p>4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな目標や課題を設定する。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>レポート：保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな目標・学習課題が設定できる。</p> <p>スクーリング：実習の流れ・心得を学ぶとともに、乳幼児の年齢別発達の特徴、実習日誌の書き方及び指導計画（指導案）の立て方を身につける。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>実習の意義・目的を理解し、今までの学びから、子どもをどのように援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、実習の自己目標（保育所・施設）を考える。</p> <p>（演習）保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い、次の実習（実習Ⅱ・実習Ⅲ）に向けての学習の取り組み及び目標を設定する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<p>1. 保育実習の意義・目的の理解</p> <p>2. 保育所保育と施設保育の理解</p> <p>3. 子どもの発達と実習の実際</p> <p>4. 実習の段階（参観実習・参加実習・責任実習）</p> <p>5. 子どもの人権と最善の利益の考慮についての理解</p> <p>6. 実習のマナー、報告・連絡・相談（ほうれんそう）の重要性、プライバシーの保護と守秘義務</p> <p>7. 実習Ⅰの自己目標（課題）の明確化</p> <p>8. 実習簿（オリエンテーション、施設の概要等）の書き方</p> <p>9. 保育所の職場構成と連携、緊急時の対応、事故予防</p> <p>10. 児童福祉施設の種類・特徴、社会的養護の原理・原則および支援</p> <p>11. 実習日誌の書き方、実習のねらいの立て方</p> <p>12. 保育指導案の立て方及び実践</p> <p>13. 実習における観察・記録及び評価の方法や内容についての理解</p> <p>14. 保育技術の利用（絵本の読み方・手遊び等）</p> <p>15. 事後学習 実習の総括と自己評価、次の実習に向けて、新たな自己目標（課題）の明確化</p>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度</p> <p>「保育実習指導」（配本テキスト）に記載されている「実習簿（日誌の書き方）」を熟読し、各欄に記入する事項について「実習日誌の記入例」と照らし合わせ理解し、面接授業で確認したい内容をまとめておくこと。</p>			
<p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度</p> <p>スクーリングで学んだ「実習簿（日誌）の書き方」を振り返り、「保育実習指導」（配本テキスト）内の「記入例」を書き写すことで理解を深める。保育指導案は、年齢と活動を設定し自分で記述してみることに。</p>			

## テキスト

「保育実習指導」(配本テキスト)

「保育所保育指針解説」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

## 参考書・参考資料等

随時資料配布

## 学生に対する評価

【通信授業】学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

【面接授業】科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Gu34390D ①②③	保育実習指導Ⅱ	1 単位	事前及び事後レポート
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。</li> <li>2. 今まで大学で学習した知識・技術をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。</li> <li>3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
レポート：1. 実習Ⅰの振り返りから自身の反省点や課題を見出す。【保育実習Ⅱ 目標と内容】等をもとに、実践的な実習Ⅱの自己目標の設定ができる。 2. 実習Ⅱの振り返りより、自己目標の達成度を説明できる。実習中の事例からの学びを、今後どのように生かしていくのか述べるができる。			
<b>授業の概要</b>			
保育現場での保育実践を、自分のものとして身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習Ⅱで生かせるように準備する。 また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分のものとして身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習Ⅰの実習全般（実習簿を含む）の振り返りと、実習Ⅱの自己目標を設定する</li> <li>2. 保育知識・技術の振り返り（1） 子ども理解、子どもの発達、子どもの心に寄り添うとは、5領域のねらいと現場での視点</li> <li>3. 保育知識・技術の振り返り（2） 子どもの基本的な生活習慣の獲得、遊びを展開するための知識等と環境構成の設定</li> <li>4. 保育知識・技術の振り返り（3） 児童文化財の利用や人間関係構築の技術、保育指導案の立案の仕方と実施</li> <li>5. 保育知識・技術の振り返り（4） 保育士の役割・業務理解、職業倫理、守秘義務、プライバシーの保護等</li> <li>6. 事後指導における実習Ⅱの総括と評価</li> <li>7. 保育実習Ⅱの自己目標から見出した課題</li> <li>8. 実習中の事例（エピソード）から 心に残る事例からの学び、今後の生か方</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
「改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270414）			
<b>学生に対する評価</b>			
学習状況の確認：レポート設題においての、実習の振り返りから見出した課題と取り組み、実習Ⅱの自己目標の設定理由及び事例により評価し判定する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Gu34400D ①②③	保育実習指導Ⅲ	1 単位	事前及び事後レポート
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設における保育士の専門性、施設に暮らす子どもや保護者について理解する</li> <li>2. 児童福祉以外の社会福祉施設（老人福祉・障害者福祉）における保育士の役割等を理解する</li> <li>3. 施設内の連携、他機関との連携について理解する</li> <li>4. 保育士の役割・業務理解、職業倫理、守秘義務、プライバシーの保護などを理解する</li> <li>5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする</li> </ol>			
<b>≪学習成果≫</b>			
レポート：1. 実習Ⅰの振り返りから自身の反省点や課題を見出す。【保育実習Ⅲ 目標と内容】等をもとに、実践的な実習Ⅲの自己目標の設定ができる。 2. 実習Ⅲの振り返りと自己目標の達成度を考察する。実習中の事例を取りあげ、今後に向けての生かし方を説明することができる。			
<b>授業の概要</b>			
保育現場での保育実践を、自分のものとして身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習Ⅲで生かせるように準備する。 施設種別により保育者の具体的な支援内容は異なる。実習先の施設種別を中心にテキスト等で学習する。事後は、自己評価による課題の明確化、今後の生かし方及び対人援助の専門職であることを確認する。			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習Ⅰの実習全般（実習簿を含む）の振り返りと、実習Ⅲの自己目標を設定する</li> <li>2. 児童福祉施設の施設種別の理解、実習施設の現状と問題点の振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の現状と問題点、社会的養護の現状</li> </ul> </li> <li>3. 実習種別による振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際</li> <li>・障害児・者の障害特徴と支援上の留意点</li> <li>・老人関係の施設と老人の福祉</li> </ul> </li> <li>4. 社会的弱者支援の基本を振り返る               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を実践しているのか</li> <li>・人権の保護とエンパワメント（人権侵害とは何か）について知る</li> </ul> </li> <li>5. 個別支援計画と他機関との連携の振り返り</li> <li>6. 事後指導における実習Ⅲの総括と評価</li> <li>7. 保育実習Ⅲの自己目標の達成度から見出した課題</li> <li>8. 実習中の事例（エピソード）から               <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残る事例からの気づきや学び、今後の生かす方</li> </ul> </li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
「改訂版 施設実習パーフェクトガイド」守 巧他著（わかば社）（ISBN：9784907270421）			
<b>学生に対する評価</b>			
学習状況の確認：レポート設題においての、実習の振り返りから見出した課題と取り組み、実習Ⅲの自己目標の設定理由及び事例により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Pr34370D ①②③	幼児専攻 保育・教職実践演習(幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。			
<b>≪学習成果≫</b>			
レポ ー ト:テキスト等の学習で身に着けた学びをレポートすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。			
科 目 試 験:幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。			
スクーリング:通信授業における学習知を基に、実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。			
<b>授業の概要</b>			
これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。			
教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して実践的指導力を身に付ける。			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<b>【通信授業】</b>		<b>【面接授業】</b>	
1. 教師・保育士という職業		1. ガイダンス、教職の意義、研修ということ	
2. 学級経営		2. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング)	
3. 子ども理解		3. 保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究	
4. 特別支援教育		4. 集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」	
5. 小学校教育との接続		5. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
6. 安全で安心な保育		6. 園における危機管理	
7. 幼児教育の将来的展望		7. 保育計画と模擬保育	
		8. 学習のまとめ ・ 自己の振り返り ・ 今後に向けての課題	
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安: 1 時間程度			
・ 自らの教育実習を振り返り、その成果と課題をまとめておく			
・ 通信授業で学んだ事柄を整理しておく			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安: 1 時間程度			
・ 自分の課題を再認識し、再度学習して定着を図る			
・ 保育教職実践演習で学び整理した事柄を、実践に移す準備・計画をする			
<b>テキスト</b>			
「保育・教職実践演習」(配本テキスト)			
「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレール館)			
「保育所保育指針解説」(最新版)(フレール館)			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレール館)			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<b>【通信授業】</b> 学習状況の確認: レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)			
科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)			
<b>【面接授業】</b> 科目の成績評価: スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)			
※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Pr34370D ①②③	保育専攻 保育・教職実践演習 (幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。			
<b>≪学習成果≫</b>			
レポ ー ト:テキスト等の学習で身に着けた学びをレポートすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。			
科 目 試 験:幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。			
スクーリング:通信授業における学習知を基に、実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。			
<b>授業の概要</b>			
これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。			
教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して実践的指導力を身に付ける。			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<b>【通信授業】</b>		<b>【面接授業】</b>	
1. 教師・保育士という職業		1. ガイダンス、教職の意義、研修ということ	
2. 学級経営		2. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング）	
3. 子ども理解		3. 保育場面での対応（事例研究）課題のある子ども（幼児）の事例研究	
4. 特別支援教育		4. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」	
5. 小学校教育との接続		5. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
6. 安全で安心な保育		6. 園における危機管理	
7. 幼児教育の将来的展望		7. 保育計画と模擬保育	
		8. 学習のまとめ ・自己の振り返り・今後に向けての課題	
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度			
・自らの教育実習を振り返り、その成果と課題をまとめておく			
・通信授業で学んだ事柄を整理しておく			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度			
・自分の課題を再認識し、再度学習して定着を図る			
・保育教職実践演習で学び整理した事柄を、実践に移す準備・計画をする			
<b>テキスト</b>			
「保育・教職実践演習」（配本テキスト）			
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<b>【通信授業】</b> 学習状況の確認：レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）			
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）			
<b>【面接授業】</b> 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）			
※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う			